

ひろ ヒナを拾わないで!!

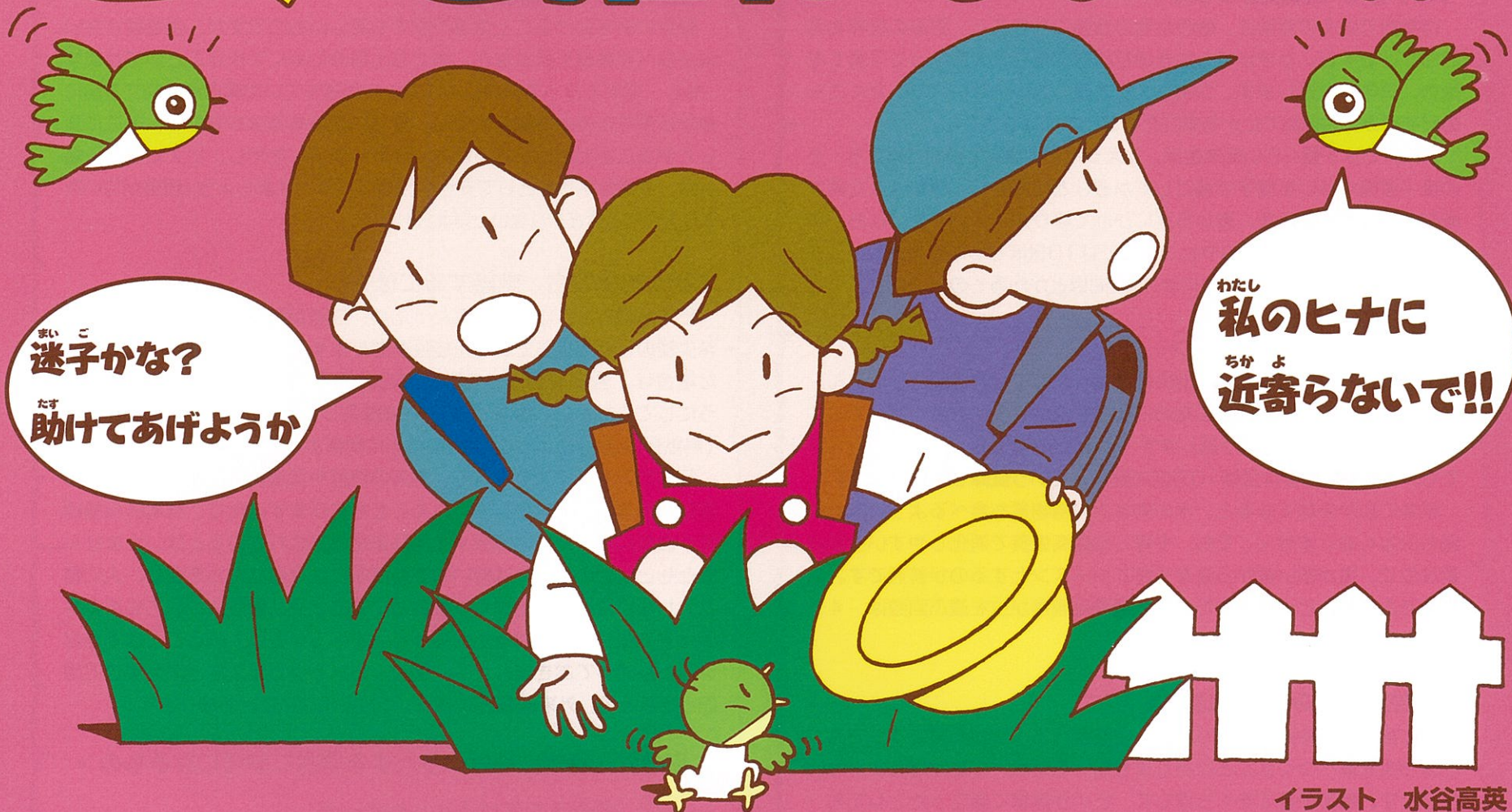


イラスト 水谷高英

Q どうしてヒナが地面にいることがあるのですか?

A 野鳥のヒナの多くは、卵からかえって羽が生えそうとすぐに巣立つので、巣から飛び出す段階ではうまく飛べずにお落ちるものもいます。でも、けがをしていなければ、親鳥が給餌や誘導をするうちに、少しずつ飛べるようになると考えられます。

Q ヒナを見つけたときは、どうしたらよいのでしょうか?

A 巣立ち直後のヒナはあまり動きません。親鳥は人がヒナの近くにいと警戒してやって来られません。ヒナに手を出して親子を引き離すと「誘拐」になるので、その場を立ち去る方がよいでしょう。

Q ネコやカラスに食べられないでしょうか?

A 心配ならば、ヒナを近くの茂みの中に置いておくこともできます。親鳥は姿が見えなくても、ヒナの声で気づくことができるでしょう。

Q 人がヒナを育てることはできないのですか?

A たくさんの虫を与え続けるなどすれば、育てられることもあります。ただ、自然界では巣立ち後に親鳥と過ごすわずかな期間(1週間から1ヶ月)に「何が食物で、何が危険か」などを学習してひとり立ちするので、人に育てられたヒナは自然の中で生きていけるとは限りません。

なお、けがをしている、希少種など、放っておけないと判断される場合は、裏面を参照して自治体などに相談してください(野鳥は許可なく捕えたり、飼うことはできません)。

共催/(公財)日本鳥類保護連盟 ☎03-5378-5691 (公財)日本野鳥の会 ☎03-5436-2622 NPO法人 野生動物救護獣医師協会 ☎042-529-1279 後援/環境省

私たちも応援しています

(株)アシスト わんわん倶楽部	大阪府	学研グループ	サントリーホールディングス(株)	(宗)真如苑
東亜建設工業(株)	栃木県	丸和油脂(株)	(株)ユーキャン	(株)レオニス
株木建設(株)	(株)共立商会	群馬県	光村印刷(株)	日本印刷(株)
日本野鳥の会茨城県	FUJINAGA	(株)文星閣	ムナテックス(株)	八ヶ岳倶楽部
(社)愛知県獣医師会	(社)秋田県獣医師会	(社)石川県獣医師会	インソフ薬品(株)	狼森(おいのもり)
(社)北九州市獣医師会	(社)岐阜県獣医師会	(社)京都市獣医師会	(社)京都府獣医師会	京都野鳥の会
三英電業(株)	(社)静岡県獣医師会	NPO法人 自然環境アカデミー	神宮司庁	高尾霊園大猫墓地
東京環境工科専門学校	(福)東京コロニー	(社)東京都獣医師会	東北緑化環境保全(株)	(公財)動物臨床医学研究所
(社)長崎県獣医師会	長野県	(公社)名古屋市獣医師会	(公社)新潟県獣医師会	(社)日本獣医師会
ビジョン(株)	(株)プレックス	(株)フレームマン	文永堂出版(株)	文化堂印刷(株)
武蔵村山ペットメモリアルパーク	メリアル・ジャパン(株)	森久保薬品(株)	(株)モンベル	野生動物ボランティアセンター
(社)山口県獣医師会	(株)ユニバーサルカラー	(財)横浜市緑の協会	(株)吉元	予防医学教育研究所
				(株)龍名館
				和歌山県
				(社)和歌山県獣医師会
				(株)オオバ
				カラータ(株)
				(株)オオバ
				カラータ(株)
				KOWA
				(株)サカタのタネ
				DSファーマアニマルヘルス(株)
				富山県鳥獣保護センター
				(株)博展
				NPO法人 野鳥の病院
				(社)和歌山県獣医師会

① 鳥や自然について知ろう (手を出す前に)



② ヒナを助けるには

<ヒナがすぐに巣立つわけ>

自然界での命の原則は、他の生物の食物になること。野鳥の世界も毎日命がけですが、わずかでも生きのびれば1年で大人になって子育てを始め、毎年繰り返します。つまり、生き残る方が少ないので、たくさんの卵を産み、短期間でヒナを巣立たせなければなりません。

スズメでは5個くらい卵を生み、かえったヒナは約2週間で巣立ち、その後1週間くらいを親子で過ごしてからひとり立ちし、親鳥はまた卵を産むというサイクルを、春から夏にかけて繰り返すようです。なお、巣立ちまでの期間は、メジロやヒヨドリでは10日ほどしかなく、シジュウカラ・ツバメ・ムクドリの中には、3週間ほどかかるものもあります。

<ヒナの成長を支える虫>

鳥も私たち人間と同じで、他の命を食べなくては生きていけません。特に鳥は、活動的に空を飛ぶために体重を増やせないの、食べてはすぐにフンを出すことを繰り返します。体重15グラムほどのシジュウカラでも、1年間に必要な虫は10万匹を超えるという試算もあるほどです。

秋冬に虫が少なくなると、木の実などの植物質も食べるようになる小鳥も少なくありません。でも、子育てには高栄養で消化しやすい虫が必要なので、虫が多い春から夏を子育てシーズンとするのが普通です。スズメでさえも、ヒナを巣立たせる2週間に親鳥が虫を運ぶ回数は、4千回を超えるといわれています。

<自然の仕組みから学ぼう>

虫に食べられる植物にとっては、虫を食べる小鳥が必要です。でも、小鳥が虫を食べつくすことはありません。それは、小鳥が増えすぎないからです。毎年子育てをくり返して、ヒナが無事に巣立ったとしても、自立、移動、越冬などの試練が続くので生きのびるのはわずか。一方で、そうして弱ったり死んだ鳥が食物となって、肉食性や雑食性の鳥などの命を支えているのです。

命の大切さは、このようにさまざまな生物が共存し、持続する自然のしくみとともに再認識されなくてはなりません。2005年から国連「持続可能な開発のための教育の10年」、2011年からは「生物多様性の10年」が始まりました。さまざまな生物のつながりから学び、持続可能な未来を目指すべき時代になったと言えます。

<誰にでもできること>

野生の命を助けることは専門家でも難しいものですが、虫を殺さない、虫が食べる植物を残すなど、誰でも小鳥のためにできることがあります。

もし、羽がそろっていないようなヒナが落ちていた場合は、巣立ち前に巣から落ちたのかも知れません。近くに巣があるはずなので、そこに戻してやることで助けられる可能性があります。ただし、ヒナにさわるとは、手袋をするなどして安全や衛生に気をつけましょう(親鳥が匂いを気にすることはあまりないと考えられます)。

<手を出す場合/救護するには>

ヒナが明らかにけがや病気だったり、自然が豊かな地域では数少ない希少種のヒナが落ちている可能性もあります。放っておけないと判断した場合は、各都道府県の鳥獣保護担当部署に相談して指示をあおぐようにしてください。なお、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護法)」によって、保護のために飼育する場合にも許可が必要です。

行政のアドバイスによって、野鳥の救護や保護飼育に取り組んでいる施設に持ち込めば対応してくれることもあります。ただ、野鳥の保護飼育や自然に帰すための知識や技術はまだ確立されているとはいえません。もともとヒナの生存率は低いので助けるには大変な労力を要し、人に慣れてしまい自然に戻せなくなる鳥もいることや、施設についてもボランティアで運営されている場合も多く、すべてを受け入れることはできないことも知っておきましょう。また、ドバトやカラスなど増えすぎて問題とされる鳥、外来種などは対応してもらえないこともあります。

<自分で一時的に助けようとする場合に参考になるもの>



『野鳥をたすけるはじめての一步』

(身近な野鳥の救護・保護のためのハンドブック)

野生動物救護獣医師協会発行 ¥1,500(税込)



すずめっ子クラブ

http://www.asterisk-web.com/sparrow_club/

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

<http://www.wrvj.org/>

(公財)日本鳥類保護連盟 <http://www.jspb.org/hina/hina.html>

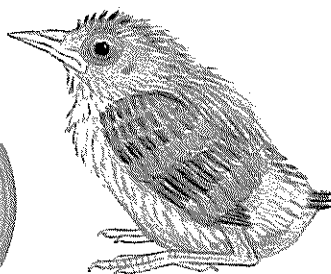
(公財)日本野鳥の会 <http://www.wbsj.org/>

(ここからポスターのダウンロードもできます)

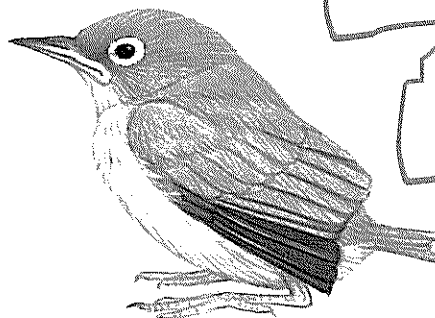
メジロの「巣立ち前のヒナ」と「巣立ち直後のヒナ」

目がきちんと開いていないこともある

羽毛が生えそろっておらず、親鳥より小さく、赤裸や地肌が見える状態のこともある



巣立ち前のヒナ



巣立ち直後のヒナ

羽毛は一通り生えそろっているが、上手く飛べないことがある

羽ばたいていたり、親鳥を追ったりするうちに次第に飛べるようになる

親鳥より尾羽が短いことが多いので、体の大きさは親鳥に近くなるが、少し小さく感じる人が多い

このポスターを目立つ所に貼ってください!

野鳥も人も地球のなかま

野鳥や自然を大切に思うあなた! きょうからなかまになりませんか?

日本野鳥の会は、自然と人間が共存する豊かな社会の実現を目指し、野鳥や自然のすばらしさを伝えながら、自然保護を進めている民間団体です。全国に90の連携団体(支部等)と約5万人のなかまたちが、野鳥を楽しみつつ、自然を守る活動を支援しています。またBirdLife International(バードライフインターナショナル)の日本のパートナーとして世界の野鳥保護にも協力しています。

★入会についてのお問合せ: TEL 03-5436-2630

ホームページから今すぐご入会できます。 <http://www.wbsj.org>

●入会や活動などについての詳しい資料をお送りします。お気軽にお問合せください。

●会員の皆様には、バードウォッチングの楽しみ方、イベント案内、自然情報などを毎月お届けしています。



公益財団法人
日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル
TEL: 03-5436-2622(平日10:00~17:00)
FAX: 03-5436-2635

《当キャンペーンのお問合せ》